

印西の歴史散策 6

12月18日(金)、冬の澄み切った青空のもと中央駅前交流館を出発。このシリーズも6回目となると皆さん歩き慣れてきて足取りも軽いようです。今回は、千葉ニュータウン中央駅の南側の平坦な台地の上を散策しながら下記の3か所を訪問。この辺りは、石器時代から人々が住む歴史あるところです。台地の丘に住居を構え、下に降りると内海が広がるという住みやすいところでした。現代になってニュータウンが造成されたのもわかるような気がします。

武西百庚申



整然と一列に並ぶ庚申塔



百庚申の中央にある塚



百庚申以外の庚申塔

文久3年(1863)に建てられたもので、「庚申」の文字塔9基と青面金剛像1基の並びが10ずつ、計100基が一列に並んでいます。この他の庚申塔も数基建てられていて、この地域の信仰の深さを感じることができます。

戸神宗像神社



小高い丘の上に見える鳥居



平成16年に建てられた鳥居



「根性のある木」

創建年代は不祥であるが、9世紀後半に創建されたと推定される。内海を見下ろせる小高い丘の上に建てられている。宗像神社の特徴として、本殿は水辺に向かって建てられている。裏手に、「根性のある木」という珍しい名の木が横たわっている。

野鳥観察舎



階段を降りたところにあるハイド



観察用窓を多数設置



観察用窓からの眺め

千葉ニュータウン中央駅に近い戸神川防災調整池に設けられた野鳥観察舎(ハイド)からは、多くの野鳥が観察できます。観察窓の脇には鳥の絵図も掲示されていて、野鳥の知識が全くなくても観察を楽しむことができます。